



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2018

3月30日号

163
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8157 福島市蓬萊町七丁目13番5号 TEL/FAX 024(529)7238

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

赤 べ こ



会 長 新 里 昌 一

諸澄邦彦さんは、日放技の理事を長年務めていました。私も色々とお世話になりましたが、理事職を2017年3月に退く事になりました。その諸澄さんが、「医療史探 医学史を歩く」の本を2016年12月に出版されました。そして全国の技師会に無料配布して頂いたので、私も早速読んでみました。幕末にオランダ医学が入り、明治からはドイツ医学が入って来ました。当時の先人達が、多くの苦勞をして近代医学を進めた歴史が垣間見られます。

特に、ハンセン病患者の不当な差別の歴史について、痛烈なメッセージがありました。原発事故での避難者への「放射能がうつる」等のいじめは、ハンセン病での差別の反省が全く活かされていないと書かれており、胸を強く打たれる思いでした。私が預かっていますので、読みたい方にはお貸しします。

2017年の日放技総会で、お声をかけてその事について話をさせて貰いました。諸澄さんから「ぜひ福島に呼んで頂き講演したい。」と言って頂きました。私から「機会があれば、こちらこそ呼びたいと考えています。」と返答させて頂きました。

また「赤べこ」の記述もあり、興味を引いたので記載してみます。「病気は、人のけがれによる神の怒り、死霊や悪霊の仕業と考えられていた。赤い色は、魔除けとともに、天然痘除けとしても使われ、今も残る玩具の多くが赤いのは天然痘除けである」とあります。幕末の天然痘の話は、ドラマ「仁」にも出て来たように思います。

なお、Wikipediaの伝説の項目には、「柳津町の円蔵寺には徳一大師が虚空蔵堂を建立する際、上流の村から大量の材木を寄進された。しかし、水量が豊富な只見川から材木を運搬することは決して簡単ではない仕事だった。人々が材木を運ぶのに難儀しているとどこからか牛の群れが現れ、材木の運搬を手伝ってくれた。重労働で多くの牛が倒れる中で最後まで働いたのが赤色の牛だったといわれている。そのことから、赤べこが作られた。」とあります。

技師会の活動は牛歩ではないですが、一步ずつ力強く歩を進めて行きたいと考えます。諸先輩が歩んだ道を、我々も受け継いで未来へ進んで行きましょう。

今年度は、会として原発視察や医療体験セミナーの参加と言う新しい試みも行いました。また、福島県立医大新医療系学部開設に対しては、前会長から引き継いだ大きな課題です。ぜひ順調に計画が進むように手助けを行い、後輩へバトンを繋ぎたいと考えています。

最後に個人的な事を1つ。東京で生まれ育ち30年、平成元年から郡山に来て30年経ち、還暦を迎える事になりました。会員の皆様、これからも宜しくお願いいたします。

福島県立医科大学 新医療系学部だより

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 久 保 均

前はディプロマ・ポリシーについて、ご紹介しました。今回は、カリキュラムポリシーについて、ご説明します…と続けるつもりでしたが、ビッグニュースがあります。私ども新医療系学部設置準備室に、新たな仲間に加わっていただきました。今回は、新しく着任されました先生のご紹介をいたします。

福田篤志（ふくだあつし）先生が、平成30年2月1日付けで滋賀県立総合病院研究所（旧称滋賀県立成人病センター研究所）から本室准教授としてご着任されました。専門は放射線計測学で、主に診断領域の放射線計測がご専門です。現在は、私と一緒に設置準備業務に携わっていただいております。

今後、私と一緒に県下の病院にお邪魔したり、研究会などに参加していただくことになると思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。以下は、ご本人からのご挨拶です。

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 福 田 篤 志

福島県の診療放射線技師のみなさま。初めまして。福島県立医科大学新医療系学部設置準備室に本年2月に着任いたしました、福田篤志と申します。皆様もご存知のように、福島県立医科大学は平成33年の新学部開校を目指し、準備を進めています。私も微力ながら、二人目の診療放射線科学科教員として、日々開設準備に携わらせていただいています。

今回は初めての投稿ですので、自己紹介といたしまして、私の簡単な経歴を紹介いたします。私は京都の長岡京市で幼少期を過ごした後、新潟大学で診療放射線技術学を学び、平成11年に滋賀県の国立病院に就職いたしました。この施設は5人の診療放射線技師が勤務する二次救急病院でしたが、一般撮影・透視、CT、MRI、RI、血管撮影、コバルト遠隔照射装置が設置されており、20カ月の間、救急対応も含めて様々な技術を学ぶことができました。その後、大阪の国立循環器病センターで心臓疾患を4か月間学び、滋賀県立成人病センターに転職をいたしました。滋賀県立成人病センターではエコーを除くすべてのモダリティの検査に携わりましたが、放射線治療に関しては新装置の導入時から携わりましたので、Commissioningも含めて、放射線計測学はしっかりと学んできた分野だと思います。8年間滋賀県立成人病センターで業務をこなした後、隣に設置されている滋賀県立小児保健医療センターに転勤し、難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療を学び、特に整形外科的に重症な小児患者の撮影に携わってきました。親御さんとの対応や小児患者のプレパレーションを8年間学んだ後、滋賀県立成人病センター研究所へ転勤となりました。研究所の勤務はわずか10か月でしたが、とても刺激的な研究生活を送ることができました。

新潟大学卒業後は、社会人としての経験を積みながら金沢大学大学院にて修士・博士を取得いたしました。短期ではありましたが、Beth Israel Deaconess Medical Centerの医学物理分野に短期留学をさせていただいた経験から、放射線計測学を基礎とした各種モダリティの出力測定法の開発が私の現在の研究テーマとなっています。今後も学生指導を柱としながら、放射線計測学を利用した分野に興味を持ち続けていきたいと考えています。

我々が現在準備をしている福島県立医科大学新学部は、皆様の後輩となる将来の診療放射線技師を育てる機関です。より良い診療放射線技師の育成につなげていくためには、福島県内の診療放射線技師の皆様のご理解とご協力が何より

も重要であり、ともに将来の放射線技師育成を考えていくことが、最良の道であると考えています。皆様のご指導ご鞭撻のほど、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



～会長 「オンレコ」～

1 「事務所拡充WG」

事務所拡充WGは、執行部と常任理事、事務局を含めたメンバーで2年間を目処に事務所の確保を検討いたします。一軒家や賃貸マンションの購入は難しいので、福島市や郡山市でアパートを借りる事を検討しています。また、高速道路IC近くに土地購入してプレハブ等を作る案も浮上しています。

2 「分科会の助成金について」

公認会計士より、分科会との関係が曖昧であるとの以前から指摘を受けていました。今年度は、分科会との関係見直しを行っています。助成金は廃止しても研究会との関係は変わりません。研究会は有志が集まり自由に勉強する場ですから、会としては後援を行います但し余り縛りはしないようにします。各研究会からは、ほぼ回答を頂きました。まだの研究会等のご連絡をお待ちしております。

3 「会員の施設等の異動について」

これから年度末になると、県内外での施設間異動等も増える時期となります。来年度の会報・総会議案書の配

送について、会員の皆さんの所属施設に必ず届くようにしたいと考えています。

施設間での異動が決まった時は、日放技と県技師会の両方に入会している方は、その両方へ異動の手続きをお願いいたします。同じ技師会ですが、個々に独立した組織です。会員の皆さんには、大変お手数をおかけしますが、両方の技師会ともホームページから異動の変更手続きをしてください。皆様のご理解とご協力を、宜しくお願いいたします。

4 「樺山誠治さんへ特別功労賞」

臨時理事会で、表彰委員会より樺山さんへの特別功労賞について提案がありました。理事全員一致で賛成可決されて、樺山さんへ特別功労賞を贈る事が決まりました。

5 「来年度は創立70周年記念誌を検討」

来年度、会として創立70周年を迎えるに当たり式典はしませんが、記念誌の発行を検討しています。各会員の皆さんへも寄稿をお願いしますので、宜しくお願いいたします。

地 区 だ よ り

会 津 地 区

「第95回会津画像研究会・第39回会津MRI研究会」開催

平成30年2月7日に竹田総合病院にて会津画像研究会及び会津MRI研究会が合同開催されました。バイエル薬品株式会社 安達 恭幸氏からGd造影剤の添付文書改訂の話があり、ガドリニウム造影剤の薬効分類名はマクロ環から環状型に、EOBプリモビストはリニア型から線状型の記載に変更になったことと、改訂に至るきっかけとなった小脳へのガドリニウム沈着の報告について講演頂きました。

MRIの研究発表は「シーメンス社製3テスラMRI Skyraの初期使用経験」会津中央病院 小沼 慎一郎氏、「心臓MRI検査はじめました」竹田総合病院 二瓶 秀明氏、「胆管結石の有無を目的としたMRCPプロトコルの検討」竹田総合病院 小柴 佑介氏の計3題でした。いずれの施設でも、限られた時間の中でより良い画像を得る為に各装置の特性を生かしたプロトコルや撮像法、運用方法を構築していました。心臓MRIについては専門性が高く携われる技師が限られてしまう等この検査を行っている施設ならではの苦労もあるようですが、心臓MRIは心機能の総合的評価や心内膜下虚血・梗塞の検出にも有用ということで、検査を行う意義は大きいのではないのでしょうか。これからも徐々に心臓MRIを行える施設が増えていくことが期待されます。



(佐藤)

県 南 地 区

「県南地区新年情報交換会」開催

平成30年1月27日 ビックアイにて開催され、当日は寒波の中38名の参加がありました。今回のテーマは「定量」とし厳密にいう定量だけではなく数字で評価できる解析も含め各メーカーより講演をしていただきました。核医学ではシーメンスヘルスケアから「シーメンスの定量化技術」と題し、PETで得られるSUVの精度管理から、SPECTでの校正線源を用いたxSPECT技術により骨シンチにおけるSPECT再構成をCT再構成に組込むことで高精細かつSUV定量画像が得られるという内容でした。日本メジフィジックスから「核医学検査における解析ソフトの紹介」と題し、定量法の基礎である製剤の集積機序と原理、解析ソフトでは脳血流シンチ非動脈採血Graph Plot法、脳黒質線条体シンチDatviewの紹介がありました。CTではキャノンメディカルシステムズから「心臓領域におけるCT定量評価」と題し、今後期待される技術としてFFR測定および、心筋Dynamic CT PerfusionによるMBF、CFRの測定に関する内容でした。GEヘルスケア・ジャパンから「CTにおける定量」と題し、Dual Energyを用いた組成分析に関する内容でした。フィリップス・ジャパンから「MRI装置における“定量評価”に関する最新Topix」と題し、脳血流非造影Perfusion 3D-ASL、腫瘍の悪性度や再発のリスクを示す可動性タンパクやpHを反映させるAPT Imagingに関する内容でした。今までは核医学分野が定量に関しての実績があり確立されていますが、今後CT、MRIの技術向上による定量解析に期待ができる内容の勉強会でした。



(小室)

県北地区

「県北地区協議会勉強会、新年交流会」開催

平成30年1月27日に福島テルサにて県北地区勉強会が開催されました。勉強会では『患者の移乗・移送(車椅子)』のテーマで福島県立医科大附属病院看護師長、小林美恵子先生、『福島県立医科大学保健学部診療放射線科学科(仮称)の設置準備とその進捗』のテーマで福島県立医科大学新医療系学部設置準備室教授、久保均先生より講演していただきました。小林先生の講演では、車椅子の基本操作とその安全管理について分かりやすく説明していただきました。久保先生の講演では、H33年4月に開院予定の新医療学部の設置準備についてお話していただき、県内初の放射線技師養成校でありその進捗状況など興味深い内容でした。勉強会後の交流会では皆様交流を深めていました。



(安藤)

浜通地区

「平成29年度相双地区画像勉強会」開催

平成30年2月21日南相馬市にて相双画像勉強会が開催されました。「MRIの基礎と新しい撮影技術 メタルアーチファクトの発生原理と抑制法、高速撮像法の変遷について」という演題でシーメンスヘルスケアの大澤勇一先生に講演をしていただきました。

平日の18時すぎでしたが33名の技師の皆様に参加していただき、今回は1社のみの講演になりましたが、いろいろな技術・ソフト開発でアーチファクト対策や高速撮像へ取り組んでいることがわかりました。MRIは検査時間が長いために少しでも早く撮像し、再撮しないようにしたいと思いますのでメーカーの技術に期待しています。その後、情報交換会として技師の皆さんとお話しする時間があり、相双地区ではまだ1年に1度ほどしか集まれる場がないので有意義な勉強会になったと思います。



(大井)

《研究会報告》

「第7回福島救急撮影カンファレンス」開催

平成30年3月10日に福島テルサにて開催され、県内を中心に93名の参加がありました。

今回は、「もう夜勤も怖くない！救急で見かける症例を探る！」をテーマに症例紹介・討論を中心に教育講演、特別講演の3部構成で行われました。また、初の試みとしてアンサーパッドを使用しての参加型の会となりました。

教育講演では、太田西ノ内病院の遠藤氏より「認定試験に役立つ、ここは押さえておこう！造影CT編」ということで救急撮影認定技師試験過去問題の造影CTに関

する問題を中心に画像の見方や病態などを解説していただきました。

症例紹介では、脳静脈奇形の症例を星総合病院の国分氏から、救急MRCPのプロトコルの検討を竹田総合病院の小柴氏から、関連痛の症例を磐城共立病院の樋口氏から紹介をしていただきました。また、座長の磐城共立病院の名城氏と北福島医療センターの松井氏より、肝損傷、急性腹症の症例提示していただき、撮影法や画像の見方ポイント、違和感の重要性などを解説していただきました。

特別講演では、南東北病院、西野徳之先生に「救急疾患における腹部単純X線撮影の役割」のタイトルで講演を頂きました。腹部単純X線画像にはたくさんの情報が凝縮されていること、視点をかえて観察することにより、

今まで気づかなかった陰影や、何が描出されているのか疑問に思っていたものを理解できるような腹部単純X線画像の読影のポイントを多数の症例を交え、詳しく解説していただきました。

救急撮影は、マニュアルでは対応できない事が多く、不安に感じることが多いかと思います。今回は、症例を持ち寄り、その所見や撮影法（画像処理を含む）を検討しあうことで、臨床における対応力を学べたのではないのでしょうか。次回は平成30年9月29日郡山ビューホテルにて開催します。多数の参加をお待ちしております。



(いわき市立磐城共立病院：名城)

《おしらせ》

『業務拡大に伴う統一講習会』が行われていますが、診療放射線技師法施行規則の一部を改正（平成27年4月1日）業務範囲の見直し内容を再確認のために掲載いたします。

- ① 静脈路に造影剤注入装置を接続する行為（静脈路確保のためのものを除く。）、造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為並びに当該造影剤の投与が終了した後、抜針及び止血を行う行為
 - ② 下部消化管検査のために肛門にカテーテルを挿入する行為並びに当該カテーテルから造影剤及び空気を注入する行為
 - ③ 画像誘導放射線治療のために肛門にカテーテルを挿入する行為及び当該カテーテルから空気を吸引する行為
- 厚生労働省から都道府県医務主管部（局）長への通知文書中に留意事項の内容記載がありました。

（医政医発0331第2号 平成27年3月31日）

抜粋資料になります。

★「造影剤を投与するために造影剤注入装置を操作する行為」とは、造影剤注入装置のスイッチを押す行為のみを指すものであること。また、「造影剤を投与する

ために造影剤注入装置を操作する行為」においては、造影剤の血管からの漏出やアナフィラキシーショック等が生じる可能性があるため、診療放射線技師は、医師や看護師等の立会いの下に造影剤注入装置を操作するものであること。

★新たな業務の研修に関する留意事項

診療放射線技師が新たな業務を行うに当たっては、法令により、研修の受講が義務付けられているものではないが、その養成課程において新たな業務に係る教育を受けていない診療放射線技師については、医療安全の確保の観点から、新たな業務を行うに先立って、公益社団法人日本診療放射線技師会が実施する研修を受ける必要があること。

《定時総会のご案内》

第7回（平成30年度）
公益社団法人 福島県診療放射線技師会定時総会

一般公開特別講演 「お悔みに関する豆知識」

開催要項

主 催 者	公益社団法人 福島県診療放射線技師会
講 師	フューネラルプランナー 浅野 ひろみ 先生 (1級葬祭ディレクター)
内 容	ご葬儀の服装(身だしなみ)について 言葉使い 終活に関して
日 時	平成30年5月26日(土) 15:30～16:30 (15:15 開場)
場 所	神楽想 (神楽スペース) 〒965-0005 会津若松市一貫町大字電賀字村前12 TEL 0242-22-4300
参加費用	無料 どなたでもご参加いただけます



お問い合わせ先

(公社)福島県診療放射線技師会 会津地区協議会
事務局 若田綜合病院 放射線科 鈴木・井上
連絡先(メール) ftr.taduf@gmail.com

編 集 後 記

今年度も残すところあとわずかとなりました。全国的に記録的に寒く厳しい冬でした。これから徐々に暖くなり、花粉の多い時期を迎えますので、十分ご注意ください。

(大和田)